SWMT 手の触圧覚・臨床記録

01｜条件をそろえ、部位ごとの検出を残す

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 評価者：_____

診断・発症日：_____ 利き手：右・左 障害側：右・左・両側

メーカー／型番：_____ セット：5本・20本・その他 _____

説明・練習：済・未 応答：発話・動作（） 実測時間：_____分

実施の要点｜Touch-Test 手用5本セットの例

前腕を支持し、接触を見せずに検査。2.83から開始し、反応がなければ強い糸へ。皮膚に垂直に当て、軽くたわませて約1.5秒保持し離す。2.83・3.61は最大3回で1回でも反応があれば陽性。4.31・4.56・6.65は1回。使用器具の説明書を優先する。

今回の方法／変更点：_____

測定記録｜数字は識別番号。荷重は製品の公称値を記入

部位・位置の詳細	右：番号／g	左：番号／g	反応・皮膚の状態
母指指腹			
示指指腹			
小指指腹			
手掌（）			
手背（）			
その他（）			

記録例：4.31／2g。最強刺激でも検出なしは「検出なし」、未実施は「未実施」と記載。反応が不確実な場合はそのまま記録し、数値を埋めるための推測はしない。

状態：腫脹・浮腫・傷・痛み・皮膚温・注意／理解・その他 _____

採用手順の原資料：North Coast Medical, Touch-Test Sensory Evaluator（2011）
メーカー手順PDFを開く 原資料を参照して整理。実施前に使用器具の説明書を確認。

SWMT 手の触圧覚・臨床記録

02｜閾値の変化と、暮らしの変化を分けて捉える

氏名／ID：_____ 評価日：_____ 次回評価：_____

手の分類の目安｜Baseline資料による公称値の例

番号	公称荷重	分類の目安
2.83	0.07 g	正常範囲
3.61	0.4 g	軽い触覚の低下
4.31	2 g	防御感覚の低下
4.56	4 g	防御感覚の喪失
6.65	製品表示を確認	深部圧覚のみ

6.65はBaselineでは300g。荷重は使用製品の表示を確認。分類は手用の目安で、足底10g検査の判定と混同しない。番号の合計点は作らない。

再評価｜同じ器具・部位・接触時間・判定基準で比較

部位	前回の番号／日付	今回の番号	条件差・解釈

生活へのつながり｜実際の動作を観察

困っている動作：_____

観察：物の滑り・落下／握りすぎ／視覚依存／皮膚トラブル／その他 _____

追加確認：筋力・運動／位置覚／識別・立体覚／痛覚・温度覚／注意・認知

対応：目視点検／持ち手・滑り止め／姿勢・支持／保護具／感覚と動作の練習

次回の生活指標（例：同じ物を落とした回数、確認の必要量）：_____

参考：Baseline使用説明書、Suda et al., Front Neurol. 2021;11:625917。
メーカー荷重表 ／ 脳卒中者の信頼性・妥当性研究
本紙は手のSWMTと臨床所見を整理する記録用紙。熱い物への接触で感覚を試さない。